

第2回浜松市基本計画検討委員会 議事録

開催日時：2024年5月7日（火）13:30～15:30

出席者：市長、斉藤薫委員、松島好則委員、中村勝彦委員、高木邦子委員、
鈴木まり子委員、野中正子委員、久保田尚委員、浅野純一郎委員（オンライン）、
石川春乃委員、北村武之委員、鈴木美枝委員、尾島俊之委員（オンライン）、
池田孝行委員、吉田早織委員、森俊太委員

傍聴者：3名、報道関係者2名

開催場所：浜松市役所庁議室

次第

1 開会

2 議事

- (1) 策定スケジュールについて
- (2) 市民意識調査の最終報告について
- (3) 現行基本計画の評価・検証について
- (4) 浜松市の将来推計人口について

3 意見交換

4 閉会

（事務局 石坂企画調整部長）

ただいまから第2回浜松市基本計画検討委員会を開会いたします。会議の開催にあたりまして、委員長であります中野市長よりごあいさつをお願いします。

（中野祐介委員長）

本日は第2回の浜松市基本計画検討委員会ということで、ゴールデンウィーク明けの何かとお忙しい中にもかかわらず、皆さまにご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。今年の1月に第1回検討委員会を開催させていただいたところでございますけれども、その際には市民意識調査の中間報告を行わせていただきまして、その結果や分析方法などについて、委員の皆さまそれぞれの専門的な見地から、貴重なご意見をいただいたところでございます。

本日は、その市民意識調査の最終報告を行わせていただきますとともに、今年度、最終年度となっております現在の基本計画につきまして、これまでの取り組みや成果の評価、検証結果、こういったものについても報告をさせていただくこととしております。加えて今後の市政運営の前提となります将来推計人口についての認識を共有するために、資料の用意をさせていただいたところです。

本日は、皆様方の豊富な経験、知識、そういったものを基に、さまざまな分野、さまざまな角度から忌憚のないご意見をいただければと考えているところでございます。これから市民が幸せを実感できるまち、また元気なまち浜松、これを実現するために、われわれ浜松市としてもしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、本日はぜひとも活発なご意見をいただけますよう、どうぞ本日はよろしく願いいたします。

(事務局 石坂企画調整部長)

それでは、お手元の次第の次に、本日の出席者名簿がございますのでご覧いただければと思います。前回欠席されました浜松市消費者団体連絡会の野中様、静岡文化芸術大学の森様より、自己紹介をお願いしたいと思います。

(森俊太委員)

皆さん、こんにちは。第1回目はインフルエンザにかかってしまいまして、急きょ休みまして申し訳ございませんでした。静岡文化芸術大学の副学長、特任教授の森でございます。特任教授というのは昨年の3月に65歳で定年を迎えまして、その後特任ということで副学長としております。

2000年の静岡文化芸術大学の開学時からおりまして24年目です。社会学をずっと教えてまいりました。コーディネーターという立場で、皆様方から忌憚のないご意見をいただけるように配慮して進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(野中正子委員)

第1回に欠席しまして申し訳ありませんでした。浜松市消費者団体連絡会の会長で野中正子と申します。昔、昔、福田総理のときに「誰もが消費者で私も消費者です」と言いましたように、暮らしの中の自給自足でない限りエネルギーも使っているし、社会全体が消費者の立場の人が、生産者も含めて動いていると思います。

私たちが主にやっていることは、表示の調査とかチェックですね。それから今話題になっています表示問題もありますけど、健康食品の機能性表示食品に関しても見直した方がいいのではないかと。それから悪質商法に対しても、被害防止啓発講座などに取り組んでおります。よろしくお願い申し上げます。

(事務局 石坂企画調整部長)

ありがとうございました。本日は、笹原委員および廣野委員よりご欠席の連絡をいただいております。東委員につきましては、急きょご欠席と連絡がございました。また、尾島委員、浅野委員におかれましてはオンラインでのご出席になります。よろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。お手元の資料の確認ということで、最初に「次第」がございます。その次に「出席者名簿」、その下に「座席表」、そして右上に資料1と書かれている「策定スケジュール」、そして資料2「市民意識調査の最終報告」、資料3「現行の浜松市総合計画の基本計画の評価・検証」、資料4「浜松市の将来推計人口（2023年推計）」というものでございます。

あと、参考資料といたしまして、「浜松市総合計画時期基本計画に係る市民意識調査結果報告書」というものがお手元にありますでしょうか。

それでは、議事に移りたいと思います。これより進行は、コーディネーターの森様にお願いいたします。

(森俊太コーディネーター)

それでは、議事に移ります。本日は4つの議題がありますが、時間が限られているので、はじめに全ての案件について事務局から説明と、その後質疑応答を行い、説明終了後に意見交換としたいと思います。

す。はじめに（１）策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局説明）

・資料１ 次期基本計画策定スケジュール（予定）

（森俊太コーディネーター）

それでは、この策定スケジュールについて、何かご質問のある方は挙手をお願いします。ご意見については後ほどまとめていただくようになっております。何かご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（質問なし）

（森俊太コーディネーター）

この件については、前回も説明をいただいたということで、次に進ませていただきます。次の議題は（２）市民意識調査の最終報告について、事務局からお願いします。

（事務局説明）

・資料２ 市民意識調査の最終報告について

（森俊太コーディネーター）

非常に多岐にわたる内容の濃い調査報告でありましたが、ご質問があればお受けしたいと思います。

（質問なし）

（森俊太コーディネーター）

次の議題に移らせていただきたいと思います。（３）現行基本計画の評価・検証について、事務局からお願いします。

（事務局説明）

・資料３ 浜松市総合計画基本計画（第１次推進プラン）評価・検証

（森俊太委員：コーディネーター）

それでは、ただいまの評価・検証について、何かご質問はございますでしょうか。

（石川春乃委員）

環境について２点質問をさせてください。環境でも自然環境の保全で非常に重要な森林資源の保全については、施策はどちらにあるのでしょうか。今ご説明いただいた環境分野にはないようなので、資料のどちらにあるか教えていただければと思います。環境以外でも森林保全は、天竜を有する浜松市ですので、非常に重要な要素として当委員会では着目しています。

(事務局 中村企画課長)

資料 17 ページ、産業の分野になりますけれども、こちらで「間伐と再生林による森林資源の循環」ということで、こちらの分野では記載がございます。

(石川春乃委員)

もう 1 点教えてください。環境の指標としまして、4 ページに環境・エネルギーで指標項目として「市民 1 人当たりのごみの排出量」というふうに掲げられていらっしゃるのですが、こちらは確か見直しをされて、項目を「ごみの総量」というふうに変えていらっしゃると思うのですが。63 ページにあります政策の取組の説明の所で、その指標自体を 2022 年に、「1 人当たりのごみの排出量」ではなく、「ごみ総排出量」ということで見直されているかと思うのですが。こちらについての記載は、どんなふうにされていかれるのでしょうか。

リサイクルの視点で重要な切り換えだと思しますので、検証としてはそちらで見ていただけたらと思います。

(事務局 中村企画課長)

現状では、元々の基本計画で設定をしていた目標値で評価をしているところでございますけれども、委員おっしゃっていただいたように、63 ページでは「排出量」から「総量」へ切り換えているということで記載がございますので、次期の計画に関しては、またそういった新しい視点で設定をされるものと考えております。

(石川春乃委員)

わかりました。ありがとうございます。

(尾島俊之委員 (オンライン))

浜松医大の尾島です。本当はこの後の総合討論で申し上げた方がいいのですが、この後私、発言できなくなりますので、意見も含めて述べさせていただきたいと思います。

全体を通して、よく現状が分析されていて、現計画についてもしっかりと考察をされているなと思いました。

いくつか今後の計画策定に向けての、ご意見を申し上げておきたいと思いますが、1 つが、運動をできていると思う方が少ないということがあったり、中心市街地のにぎわいが少ないということなどがございまして、こういう車社会の地域では、運動が少ないというのは全国的にも課題になっていまして、浜松のモデルとして、その辺を克服できるようなものを出していけるといいなと思っています。

1 つ言われていますのは、車をどこに止めるかというのがポイントではないかという話もありまして、車をどこに止めて、どういうふうにまちの中を歩けるようにするかということですか、あとは企業と連携しながら、普段の必要な生活の中でも、ちょっと車を遠くに止めて、楽しく歩いて用事が済ませられるというようなまちづくりなども、進めていけるといいなと思っております。

あと、健康の分野から見たときに、浜松は健康寿命が非常にいいですが、一方で、より延ばす余地があるとすると、脳卒中がやや多めということがありまして、最近、尿の中のナトリウム、カリウム比というのが注目されていて、食塩を減らしてカリウムの摂取を増やすことが大事ということが言われ

ています。カリウムというのは、特に野菜をしっかり食べるということが大事になりまして、農業分野ですとか飲食店さんと連携しながら、そういうことが摂取できるような取り組みができると、より健康寿命も延びるだろうなと思っております。

あと、高齢者の方のお話とか子どもさんのお話なども出てきておりますが、そういう世代間で交流したりとか助け合ったりとか、そういう活動がより盛んになると Win-Win になって、どちらもとってもいいということもできると思いますので、そういうことも目指してもいろんな施策ができるといいなと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(森俊太コーディネーター)

貴重なご意見ありがとうございます。この議題について、他に何かご質問はございますでしょうか。

(鈴木まり子委員)

質問が2つなのですが、もしお答えできたらということで結構です。36 ページの「みんなの力で自然災害から生き残る」という所ですが、確認ですが、この「生き残る」というのは、どちらかというと緊急時のフェーズのことを想定した政策と考えてよろしいでしょうかという確認です。内容的な政策は、ハードもソフトもどちらかというと緊急時かなと思ったので、今回の政策としてはそこを想定していますかという確認が1つです。

それから2つ目が、37 ページの政策の「自治会や自主防災隊などと」というのと、もう1つ「防災に関する知識と意識を」というところなのですが、両方拝見させていただくと、防災学習センターがすごく頑張っていて、大人向けの講座がいつも抽選で、すごい人気で、会場が狭いのでとてももったいないと思うのですが、常に抽選で倍率がすごくて、例えば弁護士の制度の問題とか、この間もやりました。ほとんど抽選で、防災学習センターが狭くて残念なのですが、

これを見ると、最初の方が「小中学生を対象とした防災学習環境の充実」の後段になっていて、次のページが「防災出前講座の開催や」となっていて、大人向けの意識向上している防災学習センターの講座というのは、どちらに反映をされているのかというのがわかりなればと思いました。

(事務局 中村企画課長)

1 つ目の 36 ページの基本政策のところ、「みんなの力で自然災害から生き残る」というところなのですが、こちらは危機管理部門の基本政策というふうになっております。なので、災害対応の分野を基本的には網羅したものということで、「生き残る」という表現を使わせていただいているというふうに考えております。緊急時に限ったものというものでもないのかなとは思いますが。

もう1つの 37 ページと 38 ページで、防災学習センターのところは、37 ページに実績として記載をさせていただいておりますので、こちらの分野に入っていると考えていただければと思っております。

(鈴木まり子委員)

わかりました。ここですと目標数になっているので、受けられなかった人がすごくたくさんいる人気講座をずっと続けているので、その数字も本当であれば、会場が広ければ入っていた人数になるのかなと思ったりしました。そこは少し考慮していただくと、もっと効果的な数字が出せるかなと思います。

(森俊太コーディネーター)

ありがとうございました。時間の関係もありますので、次の将来推計人口についての説明に移りたいと思います。では、将来推計人口の説明をお願いいたします。

(事務局説明)

・資料4 浜松市の将来推計人口（2023年推計）

(森 俊太コーディネーター)

ありがとうございました。ただいまの人口の推計について、何かご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(森俊太コーディネーター)

それでは、順を追って議題ごとに意見交換をしていきたいと思います。場合によっては議題いくつかに跨るということもあるかもしれませんが、まず(1)策定スケジュールについて何かご意見、または追加のご質問があれば、どうぞ。

(意見なし)

(森俊太コーディネーター)

それでは、議題の(2)市民意識調査の最終報告について、ご説明いただいたのはダイジェスト版で、本当は大きな分厚い冊子があるわけですが、分厚い冊子を含めて何かご意見があれば、いただきたいと思います。

(久保田尚委員)

埼玉大学の久保田でございます。私は前回オンラインで参加をしまして、浜松を遠くから見ている立場として申し上げたいと思います。資料2の話があって非常に印象的なのが4ページ、5ページ辺り、4ページを見ると、市民の皆さんは非常に幸せ度が高く、非常に満足して暮らしてらっしゃると。

ところが、例えば7ページの産業とか子育て、安全・安心。満足度が極めて低い。次の8ページもそうです。皆さん充実していると感じないという。総じて非常に、それぞれの項目についての満足度は正直、非常に低いと言えます。なのに、なんでこんなにみんな幸せなんだろうというのをずっと考えているのですが、おそらく浜松まつりとか、いろんな人のネットワークとか、たぶんこういうアンケートに出てこない、いろんな幸せのエッセンスがこの市の中に満ち満ちていて、それで市民の皆さんは、ここで暮らしていることですごく幸せを感じているのだと思います。

そういう意味では、これから総合計画を立てるうえで、それに甘えてはいけないというか。つまり、われわれこの総合計画というのは、7ページとか8ページの各項目をいかに充実させていくかということ、どうしても考えるべきでありまして、みんなが幸せだからいいじゃないとはいわずに、7ページ、8ページをどうやって充実させていくかというのは漠然と、印象として思いましたので、皮切りに感想を申しました。

(松島好則委員)

資料 3 の 20 ページの農林水産の中でグリーン・ツーリズムの件なのですが、これは私の認識不足ですが、どこの課が主導しているかというところをお聞きしたいのですが。

(事務局 中村企画課長)

農業水産課が所管をしております。

(斉藤薫委員)

検証の資料 3 ですが、最初の経年変化ですか。そうはいつでも目標値と実績値がぜんぜん離れている。この設定の仕方がいいのでしょうか。あまりにもギャップがありすぎていて、見ても面白くも何ともない。マイナス 120 とか、こんな数字あるのというところが、設定の仕方に問題があるのかなというのが 1 つ。ただ、経年変化を追っていくという判断ならそれでいいけれども、目標値の設定の仕方に問題があるのではないか。

それから、評価は部局が評価を書いているのか。的が外れているというか、どこかに「コンパクトに何だか」と書いてあるけれども、コンパクトなまちに浜松はなっているのかという。それがより進んでいるのかなといわれると、人口が減って希薄なまちになっているというのは感じるけれど、そこがちょっと違うのかなと。

企業立地は確かに件数は多いけれども、今企業を誘致する土地がないという。結局この 10 年はよかったけれども、この後の 10 年とか、40 年まで後 20 年先のことをやらなければいけないけれども、それに対しての考え方、ちょっと手落ちがあって土地の仕込みができていませんという反省がどこにも書いてない。

いろんな意味ですごくきれいに書いてある。浜松パワーフードは至る所に出てくる。私ら旅行業というか旅館業で皆さんに飲食で出す方としての、浜松パワーフードという認識があるけれども、浜松パワーフードは本当に取り組んでいるのか。出す側は一生懸命工夫して出しているけれども、作っている人と一体感があるのかどうか、ちょっとよくわからない。確かにきれいにまとめてあるけれども、そうかなと。

ワーク・ライフ・バランスなんかも 10 年前はよかったかもしれないけれども、今はワーク・ライフ・バランスという言葉が、あまりはやっていないような気がするけれども、どうなんですか。あまり手法として言わなくなっている。これからやるときに考えてもらわなければいけないと。

たまたま私の方で絡むのでいうと、先ほどの 13 ページの上の方にある立地の話。それから、パワーフードがたくさん出て来るというのと。26 ページの下の方の中で「事業所内保育事業」と「企業主導型保育事業」。うちは保育園を 4 つ持っているけれども、どちらに入るかよくわからないけれども。11 のうち 4 というと、すごくシェアを遠鉄グループ持っているなと思ってしまい、35 の方はよくわからない。11 とするとよく 4 つもつくったと思うけれども。

それから、32 ページの「奨学金貸与適格者」について、適格者という言葉がよくわからないけれども、浜松市に奨学金制度は今もあるんですか。

(事務局 中村企画課長)

ございます。

(斉藤薫委員)

母子家庭奨学金というのがあって、私は浜松市からもらっているけれども、この前 10 万円だか国からもらったので、浜松にお返ししないといけないと思って、そこへ寄付すると持って行ったら、もうそんなのありませんと言われたけれど。途中で統合されたのか。

(事務局 中村企画課長)

母子家庭の奨学金だと、福祉的なところを出している可能性がありますし、今の奨学金制度は学校教育の教育委員会の方でも出してはおります。

(斉藤薫委員)

この適格というのが、何に基づいて、生活が困る人たちに出すような適格なのか。目指しているところが医療とか何かの、お金がかかるところだから、そういうに向かっては奨学金を出すとか、その辺がよく分からなくて聞いているのですけれど。基本的には生活が苦しい人に出すのが正解ではないかと思いますけど。

(森俊太コーディネーター)

今たくさんさんの点についてご指摘いただいたのですけれども、いくつか回答をいただけるのであれば、よろしくお願いします。

(事務局 中村企画課長)

まず目標と実績のギャップが大きすぎるのではないかと。設定の仕方がおかしいのではないかと。私どもとしても全く同様に考えております。前回目標値として設定をさせていただいて、今回こういった結果になっておりますので、それらも踏まえて、先進都市の事例なんかを考えながらやって行く中で、今回こういった市民の皆さまの意識を聞くような質問に対して目標を設定していくというのが、あまり適切ではないのではないかと。というふうな結論に至っております。

ですので、目標の設定というわけではなくて、状況をしっかり把握しながら、市民の皆さんがどういうふうに考えていらっしゃるのかということ、しっかり把握しながら進めていく必要があると考えておりますので、次回の総合計画、基本計画の中では目標設定をしていかないような、状況を確認していくだけの数値にしていくようなことを今考えているところでございます。

(中野祐介市長)

何とかだと思っている人の割合と書いて目標設定をする、人の内心を目標値にするというのは、非常に難しいところがあって、前回の目標設定に無理があったのは間違いないですけれど。

(事務局 中村企画課長)

それから、コンパクトなまちが進んでいるのかというところでございますけれども、浜松市の場合はどうしても、ある程度エリアを広く開発がされているエリアというふうになってはおります。そうは言っても拠点ごとに機能を集約していくというような考え方で、浜松市は立地適正化計画を策定をさせていただいておまして、浜松駅はもちろんですけれども、JR 高塚駅ですとか天竜川駅、遠州鉄道の沿線

に集約をして、機能誘導をしていくような政策を今進めているところでございますので、そういった点でのコンパクト化というところでは、取り組んでいるというようなことになっております。

それから、企業誘致のところ、9 ページにも少し目標を、1 つ目のところを設定させていただいておりますけれども、企業立地の決定件数というようにところで、目標を立てて取り組んでいるところではございます。

おっしゃるように、土地のお話というのは課題としてはございますので、そちらの認識で次の計画を検討していかなければならないという認識は持っております。

それから、パワーフード、ワーク・ライフ・バランスという言葉が少し合わないのではないかというご指摘もございますので、そういったところも含めて、今の企業立地の件数、土地のお話も含めて、次の計画の中では検討をしていかなければならないかなと思っております。

資料 26 ページの事業所内の保育所の件につきまして、遠州鉄道様の実施されているものは「企業主導型保育事業」に該当します。

(中野祐介市長)

民間開放はしていただいておりますか。

(斉藤 薫委員)

していない。遠鉄グループでやってるのに、他のグループの人が入ると、何か事故が遭ったときに誰が責任を取るかという、企業としての責任問題があるので。

(中野祐介市長)

保育園完備の職場なので、ぜひ働きにきてくださいという宣伝をしていると。

(斉藤 薫委員)

そう。採用のためにやっているのですけれど。開放してくださいとか言われるんだけど、何かあったときに、責任は遠鉄グループで責任を持たなければいけないので、怖いという部分では踏み込めない。そういうものまで行政が補完してくれるような制度があればまだいいんだけど、今は全部企業が責任を持たなければいけないので、そこに踏み込めないんですね。そうではないですか。

(中村勝彦委員)

私達は民間で行っている社会福祉法人の園になりますので、地域の方のために園庭・園内開放を行い、いろいろな育児の支援をさせていただいています。

そのまま感想も言ってもよろしいでしょうか。

18 ページの子育て支援の充実に関連するところで、貴重な市民の皆様からご意見をいただいた中で、浜松市はいろいろな子育て支援の事業を行っていますが、それを知らない方が多いのではないかと思います。

皆さんの中で、知っている方もいるかもしれませんが、浜松市立図書館の「ブックスタート」という制度をご存知でしょうか。満 1 歳までのお子さんが絵本をもらえるという制度があり、母子手帳に記載されているとのことですが、具体的な説明はなく母子手帳をしっかりと読めばわかるような制度であっ

て、なかなか周知されていないようです。私自身も自分の孫が小児科で受診したときに、その制度があるから使うと良いという指導をいただき、その話を聞いて知りました。それからはこのような制度があると伝えられるようになりました。浜松市には良い子育て事業が多くありますので、まずは市民の皆様に周知されることが一番重要ではないかと思いました。

また、昨年こども家庭庁が創設され、子育て施策について全国的に関心度が高くなっており、メディアでもわが県・わが町はこんな子育て施策を行っていますというものを見たことがあると思います。その内容と比べてしまうと、浜松市には特徴のある独自の施策はあるのかなと思ったときに、浜松市だけの子育て施策は見当たらないと思います。できれば浜松市から全国に発信できるような子育て施策があると市民の皆様の満足度も上がってくるのではないかと感じています。

そして若い世代の方たちにつきましては、金銭的支援というものが大切ではないかなと思います。その中で、今年度から医療費が小学校就学前まで無料になりました。受診する回数が多くなる年齢であり、対象となる保護者の皆様は大変喜んでいました。できましたら、さらに対象年齢を拡大していただけるとありがたいと思います。

それ以外のところでは、子どもが病気にかかった場合に、仕事を休みにくいと言う声をまだ聞きますので、全ての職場において働きやすい環境づくりができるようになることを願います。働きやすい環境づくりができると、子育てしやすい環境も整ってくるのではないかと思います。

(森 俊太コーディネーター)

ありがとうございました。他に何かご意見はございますか。

(石川春乃委員)

環境のことなのですけれども、資料2で市民の方の意識調査の最初の項目。15ページに共分散構造モデルをお示しいただいて、その中の因子の1つとして、「自然、まちなみ、環境」とあります。環境がとても非常に範囲が広くて、自然環境、社会環境、後ほど出て来るテーマの環境エネルギー、すべて包含するような意味合いにもとれてしまうのですが、それに対しての浜松市民の皆さんの意識というのは、すごく大きく違うなというのが、今の意識調査の最終ページ、21ページの別紙A3の一番下に、環境エネルギーについて、再生可能エネルギーの導入とか省エネとかということを聞いたとき、「非常に重要だと思う」という選択が6.3%ととても低くて、先日の第1回でも申し上げたのですけれども、浜松市は非常に自然環境がよくて、社会環境も非常にいいと実感できて満足できている。だからこそ当たり前と思ってしまっているその自然環境が、なかなかエネルギーや環境に今、配慮するといったような王道に、なかなかつながっていないんだなというのが、ここに非常に表れているなと思います。

政策の方で、先ほども伺ったのですけれども、森林保全は先ほど教えていただいたように、林業振興として経済と結びつく項目で出ているのですが、今浜松市が出しておられる環境エネルギーという資料3の基本計画、今までやってきた整理の中で、④として58ページに、ごみの減量や資源化、いわゆる社会環境、公衆衛生、こちらの保持という内容と、もう1つ再生可能エネルギーなどの建物に対するエネルギー自給率、これを2つ大きく掲げてやってきたということだと思います。

やはり市民意識としては、環境エネルギーがこれだけ今重要な時代に、浜松市民は太陽エネルギー等の自然エネルギーを潤沢に受けて、そうした恩恵を受けているからこそ、市民活動、環境行動が起きにくいというところが強く感じられるところです。

ですので、基本政策として 59 ページからうたっている「環境と共生した」というところが、先ほどの森林保全といったような意識で考えると、環境保全として非常に精力的にやっておられるし、市民もこうした活動をやっているのですけれども、一方でもう 1 つの 64 ページからのエネルギー政策に、どうしても市民意識が起きにくいところが、非常に今の浜松市の課題かなと思っています。

先日の環境審議会でもそうしたエネルギーに対するエネルギービジョンを、浜松市は古くからずっと積み上げてきて、それを一体にした人口計画をまとめられました。こちらでそれがどう具体的に動くかといったことは、浜松市の発信はもうできているのですけれども、なかなかそれが市民への伝わりになっていないというところが、非常に今回の基本計画で形になって進んで行くとうれしいかなと思っています。

太陽光ですとか自然エネルギーの利用については、事業所側の活用はとても素晴らしいものがあるので、それを市民ベースで、ありがたいと思うだけでなく、そのありがたい自然エネルギーを受けて、それを自分たちの行動につなげようという市民のアクションが、浜松市側の政策で動いて行くと、とても効果的なのではないかと思います。

(事務局 中村企画課長)

先ほど森林のところは産業のところということで、お答えを申し上げたところですが、正確に申し上げますと、おっしゃった 59 ページの中で、森林も含めた環境政策全体のことを、政策として記載をしているというような流れになるのが正解かなと思っております。

今おっしゃったような市民の行動につながっていない、環境の大切さを、エネルギーとかそういった面で、市民がどういうふうに行動につなげていくのが大切かということにつきましても、もちろん部局の方も含めて認識をさせていただいているところではございますので、次の基本計画の中では、実際の行動変容につながるような政策、施策をどのようにとっていきけるかということが大切なところかなと思っております。ご意見を参考にさせていただきながら、取り組んでまいりたいと考えております。

(石川春乃委員)

ありがとうございます。その際に、先ほどの 2 つの目標が、環境保全の部分とエネルギー活用という部分の 2 つに分かれているのがもう少し混ざると、住宅の設置にどのように税制優遇などが配慮されていったような、市民にとってのインセンティブ、自分にとっての利益になるというところにつながるようなアプローチがあると動きやすいのかなと思いました。

環境活動行動は浜名湖ですとか、さまざまな市民団体で多くやられている。それはそれですごく活発で素晴らしいことなのですが。そうした市民活動というよりは、エネルギーを自分事として、自分の利益になるという意識で捉えていただくようなアプローチも必要なのかなと思って申し上げました。よろしくお願いします。

(久保田 尚委員)

コンパクトなまちづくりという話でしたけど、斉藤委員から「本当に大丈夫なのか」というお話があったと思いますが。先ほどのお答えだと、適正化でコンパクトにしていくというお話だったのですけれども、おそらく今後の浜松市を考えると、都市計画区域ではないところ、あるいは市街化区域ではないところをどうつくっていくのかというのが、最大のテーマだと思います。

先ほど天竜区が今後、半減以下になってしまうと、非常にびっくりして聞いていたのですけれど。例えば、あるところの集落をどうやって維持していくのか。ある意味そういう単位でのコンパクトにしていって、1万人の人にどうやって暮らしていただくのか。その辺の政策がまだここに書かれていないような気がするので、市街化区域内のコンパクト化、今日本中でやっている都市計画のテーマ以外のことが、非常に大きなテーマだということを、ぜひ浜松市としては認識をしていただきたいというのが1つです。

それから交通問題でいうと、やはりそういうエリアの足をどう確保するか。今日ちょっと申しましたが、非常に公共交通などに対するサービスの充実度、満足度が低い状況があって、今後さらに天竜区、あそこに1万人という状況の中で、あの方々にどうやって動いていただくのかという大問題があるので、すけれど、これもおそらく今日本中でやっているような公共交通という名前の乗り物以外が、もしかしたらできるかもしれない。1万人だったら、全く新しい交通サービスというものが機能する可能性すらあるような気がしますので、総合交通計画もこれから考えていただくようになっているわけですが、足並みをそろえていただいて、ぜひそちらを考えていただきたいと思います。

(鈴木まり子委員)

今後の基本計画になると思いますが、今回のこの市民意識調査の最終報告のところでも、私も他の市町で審議会の会長をやっているのですけれど、どうしてもこういうふうには部局名で担当になってしまうのは仕方がないと思っています。それはもうそのとおりなのですが、ただ、基本計画を今後考えるにあたっては、分野を越えてシナジーが起きるような基本計画だといいなと思っています。

その提案の根拠は、私は今回、防災担当で出ていると思っていますが、「はままつ na net」という所で活動していますが、石川県の方、能登半島も9回ぐらい行っています。で、皆さんも拠点を置いてもう13次隊まで入っているのですけれど、大学生とか若者がすごく被災地にいます。浜松もボランティアバスに大学生、高校生が乗って行きました。若者という視点でいうと、企業も今113社が浜松から支援しているので、ここがうまくマッチングすると、就職は東京ではなくて、これだけ災害支援をやっている企業に入ろうかなみたいな、ちょうどニーズが合った人たちが、今ちょうど一緒に石川県にいる状態になっているものですから、そこら辺になると若者とか青少年育成の課とも関係しているなとも、自分は思ったりもしています。

あとは、避難所で女性の課題もあるので、そのことについては今、男女共同参画課の課長とかとも話をしたりしているので、そこも関係しているかなと思ったりもしていますし、そういう意味では、お互いにシナジーを起こすような基本計画を希望します。

特に今石川県で一番来ているのは「タビイク」という若者たちが全国から、どうしてこんなに来ていると思うのですが、それは災害支援のボランティアではなくて、タビイクという旅をしていく若者たちが旅の途中として、能登半島に集まって真面目に災害支援をやっている。そこに浜松の若者がいっぱいいるんですね。彼らは災害には全然関心ないんですね。タビイクがネットワークになっていて、真面目に災害支援をやっている。というあたりという、どうやって縦割りに横ぐしを刺す基本計画を立てて、例えば私が危機管理課とやっても、男女共同参画とか青少年の方に口を出せるかみたいなのも大事かとは思っています。

あと、全国的にも今回こども家庭庁ができて、能登半島のこどもに居場所づくり連携会議というのも、OECD（経済協力開発機構）が主催ですけど、バックでこども家庭庁と文科省がやっていて、私は

毎週火曜日に進行役をオンラインで手伝わせていただいている中で、子どものこともずっと災害の備蓄でお手伝いしていますが、平時からの、結局は子どもの居場所の課題をずっとやっているわけです。

そういう意味で、もう少しその辺も横ぐし化した基本計画になると、たぶん一気にシナジーが浜松にも起きて、浜松方式的な、どこでも分野別が多いので、そこを何とかできたらみんな動きやすくなるのかなというふうに、今後の方向として希望しています。

(野中正子委員)

1つは58ページの「再生可能エネルギー等が広く導入される」ということが書いてあって、ここには太陽光発電というのが、このページだけではなくて、再生可能エネルギーというと、ほとんど太陽光発電の話になっているのですが、64ページ再生可能エネルギーの導入のところに、下から3番目のポツに、太陽熱利用というのが小さく書かれているのですが、エネルギーの利用というのは1つではないと。

何が言いたいかというと、電力を作るためにわざわざ発電をして、その発電したものでお湯を沸かすというのは、無駄なことをやっていると思いませんか。だとしたら、お湯を沸かすために電力を使うのではなくて、お湯を沸かすには熱をそのまま利用するのが効率的なんですね。そういうことを利用する方が考えられるような資料を提供していただいて、進めていただきたい。

太陽光というと、とにかく光でなければいけないと思ってしまう。みんな協力したいと思っているんだけど、実際にそれがどれだけ効率的なのか、どれだけ余分なことをしているのかということも、わかるような資料を提供していただきたいなと思うのですね。

うちの関係者が家電サービスをやっているのですが、自分のうちを建てるときに、太陽熱の温水器と太陽光と両方をうちに付けていました。その時によって使い方を分けてやっている。そういう使い方がいろんな面で考えられると思います。

それから、産業とは違うのですけれども、ちょっと話が飛んでしまいましたが、今一番気になっているのは、消費者団体でいろいろ調査して歩いていますけれども、地元の本当に庶民のことを考えてくれているスーパーのような、そういう所が全部吸収合併してしまって、みんな中身が外資系に変わってしまっている。本当に地元のことを考えてくれているスーパーがなくなってしまうのですね。

地元で買い物をしたいといったときに、高齢者が多くなっている。足も弱いし、あちこち動いて回れない。免許もない、ないというか返納してしまった人たち。どこへ行くかということ、コンビニしかないと言うんですね。コンビニも外資系が多いですけれども。

できれば地元の企業であって、地元でお金を落としてくれるような、そういう所をもう少し守り育てて、これから先も地元の人が行けるような所が近くにあるようにしてほしいと思います。交通も確かにそうなのですが、車で販売して回っている所もありますけれども、せっかく今まであったところをみんな壊してしまって。壊してと言うよりも、大きな所に負けてしまってできなくなって、経済的に無理になって、そこへもって今の物価高と仕入れもできないような状況になっている。

そこで、みんな外資系に吸収合併されているんですね。中身も全部変わってきてしまっているんです。外資系の基本に沿うような内容に品揃えも変わってきているんですね。そのところを何とか考えられないのかなと思って、私たちはそれなりの提案はしているのですが、市としても、産業とは違いかもしれないですけれども、そういう地元商店をもっと何とかしていけないのかなという思いがあります。

(鈴木美枝委員)

1 点確認させてください。資料 3 の 74 ページ、あんしんネットワーク事業者数というのは、17 人、37 人と書いてありますが、17 事業所、37 事業所ということで、これは「人」という表記で大丈夫でしょうか。

あと、先ほどより子委員がおっしゃっていましたが、いろいろな分野を超えて協働するという事は、本当に私も重要なことと思っています。人口減少で地域の担い手、ささえあいの担い手がないということはどこの地域でも課題としてあります。役員がいらない、誰もなってくれる人がいないという状況です。地域の住民だけで地域を守るだけではなくて、いろいろなところが協働したり助け合ったりするなどお力を貸してくれて地域づくりが進められていくといいなと思っています。

例えば、こども食堂では、企業さんが食べられるけれども販売はできない食料をご寄付いただいて、こども食堂で活用しているという事例も、最近増えてきています。福祉の活動をしているところに企業さんのお力を貸していただき広がっていくといいなと思います。

あと、天竜区の高齢化率がこの先 58.3% でとても高い数字。天竜区は現在も他区より高齢化率が高いという認識はありましたが、ますます高齢化が進んでくると生活面での課題を抱えてしまう人が多くなることが予想されます。お店がない、買い物ができないというところでは、オンラインを使ってお薬を頼んで、杏林堂薬局がお届けしてくれるという仕組みはできています。例えば、それを使えるようにするための講座を地域で行っていたりするので、そういったところに大学生の力を貸していただくなども協働のひとつではないかと思います。本当にいろいろ暮らしを支えるために、いろいろな方のお力を貸していただけるようになってみんなで協働しましょう、みんなで力を合わせましょうみたいなことがあるといいなと思いました。

(高木邦子委員)

非常に難しいなと思った点が 1 つあるのですが、資料 1 の市民意識調査の最終報告についてというところです。私の担当が教育ですので、最後の 21 ページの No. 4 を読んだのですが、現行計画の政策名が「夢と希望を持ち続ける子どもの育成」とあるのですが、分析結果とか考察及び方向性を読むと、これが夢と希望を持ち続ける子どもを育てることになるのかと、しっくりこない感じがあります。

例えば、「必要な知識を身に付けられる」から満足しているとか、「地域愛が育てられている」から満足しているということと、「夢と希望を持ち続ける」の間に乖離があるように思えて。子育て支援なら、例えば待機児童が減ってとか具体的になるのですが、目標がすごく抽象的と言いますか。教育現場の人はよくこういう言葉を使うし、好まれるのですが、これを成果が上がっていますと言われると、ちょっとぴんとこないというのが、この分析結果を読んだときの所感でした。

もしかしたら、関係はもちろんあると思いますが、プロセスがあって、ここが整うとこういういいことがあってという、たくさんあるピラミッド、その結果ということなのかもしれないですけど、ぱっと見わかりにくいというのが感想です。

それからもう 1 点ありまして、資料 3 の 27 ページにも書いてくださっているのですが、支援を必要とする子どもの数は確かに増えています。それで不登校の支援は喫緊の課題だなということを、現場と近いところで思っております。

その中で、ざっと読ませていただくと、もちろん学びの教室とかもやられているのですが、外部

機関との連携みたいな発想がないなということを感じました。今いろんな外の機関と連携してやりましょうという流れがあるのですけれど、例えば、校内学びの教室とか、校外の学びの教室があるのですけれど、確か浜松市内全域で不登校の生徒さんが2,000人くらいいるはずなんですね。おそらくフォローしきれていない。

そういったところで、文科省からは積極的にフリースクールとか活用してくださいというのがあります。例えば静岡県でいうと、フリースクールに補助金を出して、そういう形で学校とうまくやりとりしましょうみたいな流れがあるのですけれど、確か浜松市はそういったことがないと伺っていて、そういうことも含めて、もう少し不登校の支援というのは機会がたくさんあった方がいいんですね。つながっていないければ戻るきっかけも少ないので。

そういうことで、市とNGO、NPOとかで完結するのではなくて、福祉機関みたいな所とも積極的につながっていただけるといいなというのが今後の希望です。

(吉田早織委員)

全般的なことで申しますと、先ほど中村委員がおっしゃっていました、市のサービスや支援が周知されていないということは私も感じました。市の公式ラインの中でQ&Aのチャットボットは、関連情報の掲載場所に誘導してくれますが、より新しいテクノロジーを取り入れ回答の精度が高まるとさらに使いやすいかなと思います。

そして、久保田委員からも指摘がありましたアクセシビリティの問題も、地域特性だけではなく、高齢者や障害者の方に対しての改善も図られることが望まれます。

そして私の担当領域である文化、特にスポーツに関しては、前回の会議で示された市民アンケートで「現在の重要度は低いが、10年後の重要度が高い」とされているものの中に「健康」がありました。スポーツは心身の健康づくりに密接に関わりますが、スポーツの実施率が横ばいであるということが示されており、このスポーツという言葉が何を指すのかというところの定義も明確にした方が良くと思います。スポーツと限定せずに、広義に捉え各種運動やレクリエーション、ウォーキング、犬の散歩なども含め、生活の中での身体活動を高めるということを目指すことを目標にした方がいいのではないかと思います。また、どのくらいの運動量が必要なのか。万歩計を使い1日1万歩を目指して歩くなど、目安があると目指しやすいので、子どもから各ライフステージにおける運動に関する指標が、もう少し明確に示されるといいと思います。

そしてスポーツの観戦率が低いというところですが、現在、観戦をするというと、スタジアムやアリーナでプロのスポーツを見るなどが想起されるかもしれませんが、現在スポーツの見方は多様で、オンラインで見られる機会も増えています。そのような変化を踏まえて、評価の仕方を検討してもよいかなと思います。

そして最後に、今後、市内にスポーツ施設が建設されるようなことがあれば、多機能で多様性のあるもの、かつSDGsを意識し、インクルーシブに使うことができるなど、先進的な浜松ならではの、特徴的な空間や場をつくっていただきたいです。そういったまちづくりの象徴となるようなものができればと望んでいます。また、先ほどあった運動実施率にも関わりますが、夏場は気温が高すぎて特に子どもに運動をさせられる環境が限られています。例えばそういった新しい施設には、必ず冷暖房の設備が整っていると、運動実施が年間を通して継続しやすいような環境をつくっていくということも、ぜひ進めていただきたいと思います。

スポーツツーリズムのことも 85 ページに示されておりますが、例えばワンモアスポーツの可能性なども、今注目されているところですので、そういった点も今後考慮していくというのもよいかと思います。

(北村武之委員)

資料 2 の 8 ページ目、環境エネルギーの分野です。環境エネルギーというと、ごみの減量だとか自然環境、生活環境というところに重きが置かれており、市民アンケートでもそういう結果が出ています。

一方、再生可能エネルギー、省エネルギーという点について、市民アンケート結果では、実感度と重要度というところは第 4 象限に入っていますので、一番低い結果になってしまっています。

それに対して広聴モニターアンケートで、フォローしていただいたと思っているのですが、結局自由記載の中で、19 ページにあります、再生可能エネルギー、省エネルギー関係で 2 点回答があつて、1 点目につきましては、太陽光パネルの廃棄問題がここで示されているわけです。やはりごみ問題、環境はごみなのかなという感じがします。

2 点目につきましても、「地球温暖化対策について聞かれてもこんなことをしていますと思い当たらない。」という回答です。CO2 削減の効果は勿論、対策方法も見えていないのかなということもあつて、PR や啓発が重要なのかなというのは 1 点思いました。

地球温暖化対策についてやっているところがあまり見えないので、逆に自然災害が甚大化しているということがクローズアップされ、そういうギャップで再生可能エネルギーとか省エネルギーが、進んでいないのではないかと見えるのかなと思います。これが 1 つ感想です。

もう 1 点、先ほど斉藤委員から、現時点での指標が的確かどうかというお話もありまして、私もそう思っています。資料 3 の 62 ページに、大気、騒音及び水質の環境基準を満たすうんぬんという政策があります。先ほどの環境エネルギー分野の代表的な指標として、生活環境の快適さという指標を捉えているかと思いますが、まさにこの指標がここでいっているところだと思います。

その指標の示し方というのが、あなたの暮らしている地域の生活環境（大気、水、土壌等）は如何かと書いています。ということは、この 62 ページの指標にリンクしていると思います。その指標は何かというと、大気の大気環境基準だったり、公共用水域の大気環境基準だったり、佐鳴湖の COD なのです。

この大気の大気環境基準というのは、昔、石原都知事がペットボトルに入れて SPM をまいていたような時代の大気環境のことをいっていて、佐鳴湖の COD のワーストワンは平成 13 年です。ということは、もう 20 年以上も前の話であつて、現在では環境基準をほぼ満足している訳です。

ですから、こういった指標を少し見直す必要があるのかなと思っています。現在の生活環境というのは感覚公害、例えば、騒音であるとか悪臭であるとか、そういったものの対策にシフトしているので、そこを捉えたような指標がいいのではないかと。あるいは、最近、有機フッ素化合物（PFAS）だったり、有機塩素化合物だったり、グローバルな話としては黄砂の飛来の問題もあります。それから花粉も異常なぐらいに飛散しているわけです。

ですから、こういったものを捉えたような指標が、自然環境や生活環境、快適性というのものを示すのではないかと思います。是非、こういったところを考えていただけるといい指標となるかなと思います。

(浅野純一郎委員 (オンライン))

私、次回も出られないので、少し施策に関することも含めて意見を述べさせていただきます。

2 点ほどありますけれども、専門ですので都市の開発の仕方といいますか、その展開の仕方については、久保田委員からもお話がありましたけれども、浜松市の場合は工業都市ですので、工業的なフリーハンド、開発のフリーハンドを残しておくためには、郊外開発の強度ですね。どの段階で抑えるのかというのがどうしてもあって、コンパクトシティを進めるためには厳しくした方がいいんだけど、一方で開発規制を厳しくすると、どうしても産業開発の方にウェッジがかかるのでというところのバランスのとり方がずっと、過去 25 年ぐらいそうだったと思うんですね。

市街化調整区域の土地利用方針の改定をする議論をここ 2 年ぐらいやっていて、委員の方からかなり厳しい意見が出たのですけれど、結局のところ厳しくしますと言い切れず、検討しますというところで終わったというようなところだったと思います。

ですので、やはりそのところを、どういうふうにもう考えていくのかというのが、宿命的な課題なのかなと思います。

それから、もう 1 つは、中心市街地の話もありましたので、その拠点の考え方ということに関連するのですけれども、中心市街地活性化基本計画については、どこの都市もそうなのですけれども、制度を始めてから 30 年ぐらいたって、初期にはたくさんあったハード系の大物事業が一通り終わってしまって、ほとんどの都市はもうやめているんですね。やっているのは何かというと、マネジメントだけやっていて、任意の中活に切り替えているということです。

ですので、要するに初期にやっていたようなハード事業型のもので、中心市街地を活性化しましたというようなことを、KPI のようなもので求めて、こういう総合計画で図るというやりかたは、なかなかできなくなっていると思います。

そういうことで考えた場合、立地適正化計画と合わせて考えると、例えば浜松市ぐらいの大きな都市であるなら、ちょっと違った指標を入れて、例えば、エコシステムということでスタートアップの事業をかなりやっているわけですから、そういうものの事業を、例えば中心市街地とか拠点に設定したところに入れて行くとか。要するに商業とかそういうものの、歩行者とか、商業ベースでにぎわいを図るのではなくて、そこで発生したスタートアップの実力であるとか、昔よく使われた昼間人口が増えているとか、そういうものに切り替えて、多角的に中心市街地の見方を変えていかないと、じり貧かなという気がします。

われわれの分野では、また国土交通省がスーパーシティとかスマートシティという構想をやっていて、浜松市を見ると両方とも手を挙げていて、何でもやっているという感じなんですね。しかも、そのところの提案書を見ると、国土縮図型政令指定都市と書いてあって、これはまさしくそのとおりで、けどなんかよくよく聞くと自虐的なニュアンスがあって、要するに全部入ってるから全部政策やりますみたいな空気取れてしまって、結局、市としてどの方向に行くのかというような方向付けが、非常に見にくくなりやすいのが少しあると思います。

少なくともこのスマートシティとかスーパーシティというのでやるのは、DX を進めるとか、カーボンニュートラルみたいな話は、ここ 20 年、30 年ぐらいかかる話なので、もう少しこの方向で東ねて、今後それで行くんだぞみたいな、わかりやすいようなもので載せていった方がいいような気がします。

私は個人的には、少なくともスーパーシティの方は、新潟市がやっているように中心市街地に限定して、中活とは違った形でそのコアをつくって行くんだみたいな動きをした方がわかりやすいんだと思い

ます。

たぶん、おそらく浜松市の提案は、農業の話とか、Well-Beingの話とか、無理やりなんか、国土交通省にやらされて作ったのではないかなというように非常に苦しいところがあって、分散してしまっているのが非常に残念なのですが、もう少しシンプルに中心市街地を活性化するというふうにやっていった方が、いいのではないかなというふうに個人的には思いました。

(森俊太コーディネーター)

それでは市長、最後にまとめをお願いいたします。

(中野祐介市長)

今日は、大変いろいろと多岐にわたってご意見をいただきましてありがとうございました。次回からは、いよいよ次期基本計画素案についての議論を始めさせていただくわけですが、これから10年を考えた計画を作るにあたって、現状の分析というのが一番ベースとして重要だと思っていて、その点で今回の市民意識調査の分析、また、現行計画の検証というのは、非常にしっかりやらなければいけない分野だと思っています。

そういった中であって、先ほど来お話がありますとおり、前回作ってからも10年たっておりますので、前回作ったときのものが適切だったのかどうなのかというのがありますし、また、これまでの総括も今回自己評価、自己採点でやっておりますので、果たして適切な評価、検証ができていますのかというようなことも、ご指摘をいただいたところでありますので、もう一度改めて現行計画を含めた分析をしっかりした上で、次回に向けて、その評価をベースとした次の10年に向けての基本計画、素案になりますけれどもお示しをできたらと思っております。

今日はなかなか時間が十分ありませんで、ご意見の言い足りない部分も多数あるかと思っておりますので、また追って、ご意見がございましたらメールなりでお寄せいただければ、次回に向けて反映をしっかりとさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

(森俊太コーディネーター)

それでは、議事をこれで終了します。進行を事務局にお返しします。

(事務局 石坂企画調整部長)

本日は委員の皆さまからご指摘、ご意見をいただきました。お時間がない中で申し訳なかったのですが、次回の基本計画の素案に向けての確定作業を、皆様のご指摘、ご意見を参考に進めてまいりたいと考えております。

次回の検討委員会の開催は、6月25日(火)を予定しておりますので、進行の方法はまた検討させていただきますけれども、ご出席をよろしくお願いいたします。

それでは、第2回の浜松市基本計画検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。